

市民政策コメントにおける意見

項目		要 約	回答
統合・再編	No.1	文化施設は、スポーツ施設のように種目（ジャンル）ごとで細分化されていない。老朽化したといって、これを統合して再編するというのは、文化活動の多様性を行政が狭めることに等しく、非常に乱暴なことではないかと思う。	<p>鳥取市の4つの文化施設（市民会館、文化センター、文化ホール、福祉文化会館）は、稼働から50年前後が経過しており、施設・設備の老朽化が進んでいます。近年では空調等の不具合の発生や旧規格音響設備等も多く、十分な活動の場の提供が困難な状況となってきています。また、鳥取市公共施設再配置基本計画及び鳥取市公共施設再配置の推進に向けた取組方針を踏まえ、より効果的な文化施設の再編が急務であると考えています。</p> <p>今後策定する基本計画の中で、4施設の機能を充実し、本基本構想に記載の6つの機能と駐車場について検討することで、活動が更なる飛躍につながり、将来に渡り夢と希望に満ちた本市の文化芸術活動の拠点となる新たな文化施設の整備を進めていきたいと考えています。</p> <p>また、現在の活動で使い勝手が悪い点を改善し、最新設備を導入した施設を整備することで、管理・運営面においても安全で快適な利用ができると考えています。</p> <p>市民の皆さんの思いを可能な限り反映できるよう、今後の基本計画でしっかり議論していきます。</p>
	No.2	文化事業は、鳥取市のような地方では、行政がパトロンとなって、投資や醸成をすすめるほかはないと思う。少子高齢化や税収の落ち込みが課題となる時代、整理、合理化したいという流れは理解できる。けれども役所がまず政策として施設の面積を削減するということが、文化事業を減速させ、市民の多様な選択肢を奪うことになってしまう。 しかし、文化施設を使って発表や表現をする方は、みな同じ時期、同じ曜日（土日祝）を利用したいので、4つの施設を1つにまとめるようなことが仮に実行されると、使えない人や団体が発生する。この間に吹奏楽や合唱の全国大会、もしくは中四国大会があると、練習場所は県立施設を加えても不足してしまう。現在でも、利用者の需要に施設数や多様性が追いついていない現状があると思う。	
	No.3	市の文化施設は、県の施設と比べ、建てて以降の投資を渋られており、資産価値に磨きがかかっていない。朽ちる一方にまかせて建て替えができないという不幸な状況だが、これを統廃合したとしても、問題を先送りしただけで、40年経てばまた同じ問題に苦しまないだろうか？資産管理の在り方を根本的に見直してから立て直しや大規模修繕をしないと、市民に対して望まれる施設になっていない現状が永遠に引き継がれてしまうことを危惧する。	
	No.4	展示施設とホール施設を複合化するのも無茶である。どちらも利用者の需要ピークが同じ時期、同じ曜日に重なり、場所は空いているけれど使えない、車が置けない、そんな苦情が聞こえてきそうである。複合化するなら、需要ピークの異なる施設（例：図書館とホール）で行うよう再考すべき。	
	No.5	統廃合を考えるのなら、学校、プール、公民館というものもたくさんあると思う。なぜ最初に文化施設がターゲットになったのか、そうした背景も、きちんと説明がなく、唐突な感じが否めない。このまま基本計画に行くのではなく、踊り場として、市民の皆が納得できるよう、更なる議論の熟成を望む。	
	No.6	文化施設の在り方、といってもとても難しいと思う。なぜなら、多種多様な文化に対応し、全ての希望を満たすためにはいくつあっても足りないから。乱暴に一つの施設に集約できるものではないと思うし、かといって施設をたくさん作るための資金をどう捻出するのか、市民の理解が得られるのか、なども課題となりますよね。	
機能・規模	No.7	市民会館、「文化センター・ホール及び福祉文化会館が有する主要な機能は新たな文化施設に継承します。」に賛同する。特にホールについて、演劇の公演ができる機能は必ず継承してもらいたい。	<p>ホール機能につきましては、現在利用されている幅広い用途（音楽・舞踊・演劇公演、式典・発表会・イベントなど）に対応できるように検討していきます。</p> <p>機能・規模については、引き続き市民の皆さんの意見把握に努め、使いやすく充実したものとなるよう、しっかりと議論を重ねて基本計画を策定したいと考えています。</p>
	No.8	ホールにはホワイエを必ず。公演時に一息つけて、交流の場になるため、来場者が心を満たすことができる。劇場は非日常を楽しむ場所。	公演前、公演後、それ以外でも来場者が自由に交流できる、一息つける場所としてホールにホワイエは必要と考えています。
	No.9	鳥取には小劇場が少なく、100席程度の実験的試みが行える場があれな学生演劇、ジャズの演奏会などが盛り上がるだろうと思う。人口減少の中、気軽に発表ができる場を作ることには不可欠である。鳥取から新しいアートを生み出していくという意識ある若者たちへ可能性を開く必要がある。	実験的試みが行えるなど、気軽に誰でも文化施設を使えることは必要と考えています。練習室を小規模イベントに利用するなど施設機能の多様な使い方についても検討を進めているところです。

項目		要 約	回答
	No.10	賑わい創出のために、特別な催しものの時だけではなく、常時施設が開放され使用されていることを設計で考える。目的のある使用の他に、特別な目的がなくても人が集える広場、サードプレイス（鳥取県民文化会館の吹き抜け空間のような場所）としての機能がほしい。自由におしゃべりしたり、一人で本を読んだり、ちょっとした打ち合わせ場所、待ち合わせ場所に使用する風景が鳥取県民文化会館では常時見られる。椅子やテーブルもある自由な開放的空間があると市民は嬉しい。	交流機能は、子どもから大人まで市民の誰もが気軽に立ち寄って交流ができたり、文化芸術活動をしている人と人がつながる場として必要と考えています。
	No.11	全体に今後の基本計画策定の段階で検討するという表現が随所にあり、全権委任を・白紙委任をとられているような気がする。例えば、「300～1000㎡の部屋を、複数」というような表現で総括されると、具体的に「何㎡のが何部屋で、またそれとは別に、何㎡のが何部屋」と言っていることなのか伝わらない。受け手によって全く違うものを想定する可能性があるのではと思う。あるいは、ホール等の面積でも、「小規模」とか「大ホール」とかいうなんでも受け止められる表現があり、具体的にどれ位を「小」とし、「中」「大」とするのか議論が噛み合いにくいのではないかと。同じ言葉を発しながら、違う意味合いに想像・理解しては、イメージが共有されないのではと思う。（言わば、悪く言えば、だましの表現にもなってしまう。）言葉をもっと明確にして、誰にも同じ理解ができる用語・言葉遣いをすべきと思う。	基本構想では、様々なことを想定してのイメージをお示ししておりますが、今後策定する基本計画では、詳細について皆様に分かり易い表現でお示ししたいと考えています。
	No.12	仕事柄、親子での舞台鑑賞に携わる中で分かっていることがある。現在のお子さん、保護者さんはとても忙しいということ。仕事も、習い事も、一生懸命されている。その中でも週末のイベントを探し、親子で楽しめるもの、子どもの成長に良いものを、（良くも悪くも）効率的に体験できるよう求められている。ということは、今後さらに、週末にイベントが集中し、施設の利用が増えること、週末に利用したい団体が増えることが想像できる。 現在の鳥取市にある施設数でも希望日に抽選がある状況で施設数を減らすことはありえない。このアンケートの「目的」にあるように、『文化芸術は、私たちの心や生活に潤いや豊かさをもたらすと同時に、人々の創造する力を育てます。また、文化芸術を通じて、人と人が結びつくことで、まちの活性化やまちの魅力を高めることができることから、鳥取市では、鳥取の地域性を活かし、文化芸術をさらに発展させ、未来につなぐことが、重要である』と考えるならなおさらではないか？全世代のための1000人を超える大きなホール、5～700人の中くらいのホール、強く希望の声が上がっている。 300名規模のホールもよいが、私達があえて希望するのなら、ステージ・平土間に変更でき、ほっこり空間で芸術鑑賞できるような200人の施設やコンサートから展示会まで多種多様に変更できるホール、会議室、遊戯室、簡単な調理室。希望がかなうなら、子育て王国の県庁所在地ならではの取組として子育てが楽しくなると思う。	新たな文化施設では、ホールだけでなく、施設全体でワクワクするような場所、また、使いやすい施設を目指して取り組んでいきたいと考えています。
	No.13	展示施設は、学芸員を置いて、常設展示コレクションが無いというのはもったいない投資だと思う。しかし、これから鳥取市美術館を作ったとて、国内外から注目されるような展示物を集めるのは相当な時間と労力とお金がかかる。ホール施設とは準備も予算も異なり、同時進行には無理がある。美術品といっても注目されるものは難しいので、例えば鳥取市出身の人気漫画家の原画や顕彰を行うなどすればよいかもしれないが、そのソフト整備は、建物を建てる以上の苦しさがあると思う。それなら展示室だけで自由に市民が使えるほうが私は有意義な投資だと思う。	本基本構想における展示施設は、鳥取市美術展が開催できる規模を想定しているところです。この展示施設の活用については、市民の皆様から広くご意見を伺いながら今後検討していきます。
	No.14	多目的トイレは必須、男女比率を検討、公演の際に滞留しない設計。（参考：松本市市民芸術館）、防犯対応。	多目的トイレや男女比率の検討は必須と考えています。今後、施設の規模や想定するイベントなどを精緻に分析し、全ての人が使い易く、安心して利用できるよう合理的な設計に努めていきます。

項目		要 約	回答
	No.15	ホールの公演では休憩時間にトイレが大変混みあう。女子トイレは絶対数が少なく、開演に間に合わない事態も発生する。数量の確保はもちろん、男女トイレの合理的な割合での整備を希望。	
	No.16	基本構想案P7、「学生が利用しやすいフリースペース」とは、どんなことを示しているのか。	学生などが学習や対話などを行うことを想定しています。
	No.17	基本構想案P26「市民の活動内容を踏まえた設え」として、そのすぐ後突然「流し台の設置」とそれだけが例示され、脈絡がなくなってくる。どこにもその前後に流し台を必要とする活動が出ていない。	関係団体の意見聴取の際に出たご意見（いけばなの展示に使用する）であり、展示スペース兼イベントスペースで想定される様々な使い方のひとつの例として挙げたものです。「例：流し台の設置等」は、「いけばなに利用する流し台の設置等」と追記します。
駐車場	No.18	駐車場台数の確保は必須。	基本構想P20に6つの機能に加え、駐車場などの環境も整備すると記載しており、今後、施設の規模や場所に合わせた駐車場を検討いたします。地下駐車場についてはご意見の一つとして参考にさせていただきます。
	No.19	駐車場は今のところは必須。収容数もしっかり確保してほしい。駐車場が少ない施設でのイベントに子どもを連れて行きにくいという声をよく聞く。子育て中は荷物も多く、子どもを連れて悪天候で傘をさす、というのはお出かけのハードルが上がる。また、他県では新施設に駐車場がないから使いにくいという意見も聞いている。駐車場は地下に確保し、車社会ではなくなった際は、シェルターとしても使えるように考えておくなど、素人考えだが思う。	
人材育成・管理運営	No.20	可児市alaやせんだいメディアテークなどは人の力による成功が大きい。クリエイティブな活動を常時できる場を作ったり、人材育成やワークショップを定期的に開催し続けることも大事。ハードの話だけが強調されているが、むしろ人の方が大事である。	文化芸術の発展のためには人材育成やソフトに対する支援も必要と考えます。文化芸術活動を始めたい、舞台芸術の専門職や文化芸術のコーディネーターとして文化芸術活動を支えたい、鳥取の文化芸術を盛り上げて地域活性化につなげたい、多くの人とつながりたいなど、様々な視点から文化芸術活動に関心を持てただけよう令和8年度からの基本計画策定に合わせて、人材育成に関する取組を行っていく予定です。新たな施設でしっかりと活動が継続・発展できるような需要にあった企画・運営を目指していきます。
	No.21	ソフトに対する支援を明記しない限り、30年遅れのハコモノ行政になりかねず、小さな鳥取県（市）だからこそ、できる方法を探していただきたい。そのためにも長期的目線で見た人材育成が不可欠だと思う。	
	No.22	施設建設は具体的な運営までを視野に入れた長期スパンで考えていくのがいいのではと思った。専門職を置いている事例があれば研究してみるのも良いかと思う。	
	No.23	文化施設の胆は、運営と企画と考える。次世代育成も是非検討を。舞台芸術を企画運営政策提供できる専門職員を全国から公募して配置する方法もある。市民に質の高い多様な芸術を提供できる他、次世代市民を育成することも期待できるのではないか。	持続的な運営に必要な人材の確保・育成として、専門的知見を有した人材の活用や確保、また育成についても検討を深めることとしています。
	No.24	基本構想案P32管理運営については、民間手法も含めてさまざまな方式が列挙されている。当然それとも深くかかわるでしょうが、市としての文化芸術を担う専門的な職員の採用、確保等はコーディネーターだとか云々で明確な姿勢を出していないのではないかと。施設管理ができていれば、開館・運営ができているかのような文化施設になってしまうのではないかと、大変危惧する。	施設の管理だけではなく、人材育成についても民間の専門的知見を有した人材の活用や確保、また育成に努め、その人材を活かした運営を行っていきたいと考えています。
場所	No.25	新しい文化施設建設がまちの賑わいに繋がるよう願う観点から、場所は駅周辺に近い交通の便のよいところに、一つ多目的使用の施設を建てるのがよいと思う。幾つも分散型建設は無駄に思う。	新たな文化施設は、本市の文化芸術の将来の発展のため、百年の大計となる事業です。立地場所の選定については様々なご意見があらうと思いますが、まずは市民の皆さんの意見把握に努め、他施設とのすみ分けや将来の鳥取市の姿、今後の社会情勢など様々な条件や影響を精緻に分析・比較検討していきます。これらを踏まえ、基本計画を策定する段階で、市議会や関係機関、市民の皆様と議論し、コンセンサスを図りながら進めていきたいと考えています。 また、新市域における文化施設に関しまして、地域ごとの現
	No.26	令和6年6月市議会の上杉議員の質問に対して市長は「交通結節点である鳥取駅周辺に文化施設を集約・複合化していくことが望ましい。」と答弁した。基本構想案にはこのことについて一切触れていないため市長の考えを否定して作成されたという理解でよいのか。	

項目		要 約	回答
	No.27	「中心市街地の活性化」や鳥取駅周辺の総合的文化施設ということが盛んに喧伝されてもいるが、鳥取駅周辺ということに配慮すれば、ホール、会議室を持つ鳥取市の施設である「さざんか会館」、駅南庁舎等も視野に入れた検討が必要になるのではないか。	<p>状・課題を踏まえた施設のあり方に関する方向性を定めたうえで検討していきます。</p>
	No.28	河原町の西郷工芸村、青谷町の資料館などを核とした文化芸術活動などに言及はなく、あくまで旧市街地、鳥取駅周辺をにらんだ検討で、市全体の文化活動を俯瞰しているとは感じられない。総合的な複合施設の建設地も、その範囲の中でしか構想されていないプランに見える。	
	No.29	<p>鳥取の顔である鳥取駅前、中心市街地の活性化など、もっともな理由に聞こえるが、いわば若桜街道、智頭街道など中心地がさびれたのも大型店の出店など、車社会を優先した市政の失策のつけともいえるのではないか。いまになってさびれたもの、それは当然市民が選択した行動様式なので、いったん離れた消費者などを駅前に戻すのはなかなか至難のわざではないか。しかもそこには、県立、市立の文化施設はかなりの密度で林立している。</p> <p>一方、千代川以西の湖山地区には、大学などの高等教育機関、JRの駅が二つ、空港などもある利便性の良い地であり、その上商業地で人の賑わいがあるにもかかわらず、文化的な施設は昔から一つもない。そこになんの手も打たずに、賑わいがなくなったので今ある施設を再編、集約して・・・という発想で向かうのは、検討を要するものと思う。文化施設がないところは、いつまでもないままに過ぎていくということではよいのだろうか。もちろん布勢地区には立派な体育施設があり近く開通する見込みの山陰近畿自動車道などの接合も視野に、幹線道路が集まり交通の要所にもなりうる地点を見越して、また、市域全体のバランスも見て建設場所の選定もしてほしいと思っている。旧市街地、鳥取駅前、久松山ふもとなど、こだわらなくてもよいかと思う。</p>	
	No.30	旧・合併町村部でも、公共施設の再配置などが進められかけている。それぞれ単独の地域では持ちきれない、利用度が少ないと判断されたものでも、市全体としてはどこかにその機能が残っているというようなことに配慮もしていただきたい。合併時点で、ないものはない、作らない、新築は認めないというような方針で来ていて、鳥取市南部地域にはまったく「芸術文化」に資する、核となる文化施設がないのは残念でならない。旧・合併前の自治体のエリアだけでなく、鳥取市南部地域というようなエリアでのバランスの良い再配置を望む。	
	No.31	建てる場所や規模が決まっていないのに、新しい施設の希望をまとめるのは無理があるのではないだろうか。需要を整理しないままの複合化は、それぞれの施設の存在意義を台無しにしてしまう可能性が高いと思う。	
	No.32	一番の問題は、建設場所が決まっていないことだと思う。決まってから検討をはじめないと、どんな議論も空回りしてしまうのではないか。基本構想検討が時期尚早だったのではないかという気がしている。事業の規模や予算の見立ても、これでは泡のようなもので、誰かの一言でいくらでも膨らんでいく。場所の制限があって、その中でできる最善のものを決められた予算で仕上げる。あたり前なこの道筋がぐちゃぐちゃで整理されていない気がする。新たな施設を検討する起点として、場所が決まっていることが大変重要なポイントだと思う。	
スケジュール	No.33	整備スケジュールについて、新たな文化施設は10年後と記載があるが、既存施設（市民会館）は改修して利用可能とするとあるが、この表に挙げられていない、文化センター・ホールもこの表にあげて修繕・改修等して利用可能とすべきではないか。	<p>本基本構想には既存施設の一例として、今後大規模改修が予定されている市民会館を記載しているものです。文化センター、文化ホールも適切な修繕・改修を行い、利用は可能と考えています。</p>



項目		要 約	回答
その他	No.34	基本構想が先だという総合的判断かもしれないが、鳥取市では市民活動としても「鳥取市に美術館を」という要望があるが、それに対しては市として、明解な意思・態度を示していないのではないかと。【鳥取駅前】の「中心市街地の活性化」とやらで、「文化的な、総合施設を」というあいまいな表現で、回答を避けている（あるいは美術館を避けている）かのように受け止められる。	本基本構想は、老朽化が進んでいる4つの文化施設の再編についての考え方をまとめたものであり、美術館を想定したものではありません。収蔵・保管機能についても美術品の収蔵を想定したものではありません。
	No.35	美術館の観点から言えば、「鳥取市として収蔵する作品やその規模（数量）を」決めるというような言い回しが数あるが、現在そういうものがどこにどれくらいあって、どんな基準で判断しているのかもよく伝わってこない。やまびこ館などにはそうしたものがあり、現時点での数量把握はされているということだろうか。	
	No.36	これまでの有識者会議ではコミュニティをいかに作るかについて有識者がかなり強調していた。駅前に稽古やふれあいができるような場を人材と共に配置すること、その人材を育成すること、ホールは駅から離れていても構わないが、車を利用できない交通弱者（学生・高齢者等）がアクセスしやすいようにする必要があるのではないかとということが意見で上がっていた。基本構想には、ワークショップでの市民の声が強めてあげられているが、各回10名程度に過ぎず、有識者会議での内容をきちんと明記することが必要と思う。	基本構想では、有識者会議でいただいたご意見等を新たな文化施設の基本的な考え方や機能等に反映しているところですが、コミュニティの形成や人材育成等のご意見については、引き続き基本計画策定の際に有識者会議等で議論を重ね、計画の中に盛り込んでいきます。
	No.37	現在鳥取城跡の建物の復元を行っており、城下町であったが故の名残として麒麟獅子舞が今に伝わっているが、城下町であったことの記述がない。（基本構想案P17）	城下町を活かした地域活性も大変重要であると考えますが、基本構想P17に記載している内容は、伝統芸能や文化芸術に関するもののみの記載としているところです。
	No.38	福祉文化会館を耐震補強しないのであれば、速やかに取り壊して、その跡地に近接する薬研堀跡を一部復元し、城下町であることを実感してもらうのはどうか。	ご意見の一つとして参考にさせていただきます。
	No.39	新たな文化施設の完成まで、市民の文化芸術活動に支障のないよう、既存施設の修繕等の万全なメンテナンスをお願いしたい。	現在の文化芸術活動に支障をきたすことのないよう、既存施設の適切な修繕・改修を行っていきます。
	No.40	文化芸術が、具体的に何を、どの範囲の活動領域を示しているのか全く説明がなく、なんとなく自明の理として扱われている。国が（法が）示している文化芸術はもっと幅広いものを示しているのではないかと。基本構想案でも途中で民俗芸能とやらがぼつんと出てくるし、アンケートの選択肢（回答など）には、本文中にはない用語なども見受けられる。この段階で「文化芸術」という用語で考えようとしている「鳥取市の文化芸術」はなにが抜け落ちてしまっている活動（領域）などがあるのではないかと。今、議論しようとしている「文化芸術」とは何か、どんな活動領域のことかという前提を確認しないままに、皆が銘々に思っていることを言っているということになってはいないだろうか。	鳥取市文化芸術振興条例第2条（1）において文化芸術とは、「文化芸術 芸術（文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術をいう。）、伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎その他の伝統的な芸能をいう。）、芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能（伝統芸能を除く。）をいう。）、生活文化（茶道、華道、書道その他の生活に係る文化をいう。）、国民娯楽（囲碁、将棋その他の国民的娯楽をいう。）その他これらに類するものをいう。」と定義しています。また本条例第6条の規定に基づき、鳥取市文化芸術振興に関する基本方針を定めており、本基本構想で検討する文化芸術や活動領域は、条例や基本方針に基づくものと考えています。
	No.41	利用回数、利用頻度を基礎資料として考える素材を提供するわけなので、例えばホールの利用は「一日に一回でも利用すれば利用した実績にカウントする」という処理が適切だろうか。他の施設では、午前、午後、夜間などに細分されて処理がされており、どの時間帯が、どの規模の部屋がどの程度利用されているのか細かく評価できると思うが、ホールについて、一日に一回でもという処理については疑問を感じる。ホール利用というのは、現状でも一日単位の貸出方式を取って、料金設定などしているものなのか。ホールについての利用の比較は、単に利用回数の比較ではなく、どの施設の、どの大きさのホールが、どういう内容の、活動の利用に供されているのか、もう少し内容を詳細に評価する分析がなされていないのではないかと。どういう活動に、どういう規模のホールが、どれ位（複数の）部屋数が必要なのかの議論の判断材料になる素材を提供できていないのではないかと。	ホールの利用カウントについては、公益社団法人全国公立文化施設協会で行っている調査に準じて行っています。練習室については、時間単位で借りることが多いので、本基本構想のP40に時間帯別の稼働状況を掲載しています。基本計画では、必要に応じてより詳細な分析をしていきます。

項目		要 約	回答
	No.42	文中の一部に「文化会館・ホール」という表現が数か所に出てくるが、「文化会館」、「文化ホール」と、あくまでも4つの施設で議論しているという文体を統一しておくべきではないか。	「文化会館・ホール」という表現ではなく、「文化センター・ホール」のことと思います。分かりやすく、「文化センター」、「文化ホール」という表現に修正します。
	No.43	基本構想案P24の文中に「ビジネスユース」「ビジネス利用」と近接した部分に類似した表現があるが、2つの用語を使う以上は、別の概念だということだと思いますが、それぞれ具体的にどういう利用を示しているのか。公共施設が比較的制限をしている、物品販売などできる営利目的の利用ということか。	この部分のビジネスユースは、後半のビジネス利用と同じ意味です。社会人がパソコン等を持ちこんで仕事をするができることを意味します。「ビジネスユース」や「ビジネス利用」を「仕事にも利用できる」に修正します。
	No.44	基本構想案P7にグループ討議が紹介してあるが、たとえばこの中に「演劇・展示用ホール」という表現がありこれは単独の独立した「演劇ホール」と「展示用ホール」を別々の独立したイメージの表記なのか、機能を併せ持つ複合的な「演劇・展示用ホール」という意味合いなのか、イメージが分かれるのではないか。	独立したイメージの表記、機能を併せ持つ複合的なイメージの両方の視点であり、固定したイメージではありません。
	No.45	ワークショップも3回実施したことが紹介され、意見に反映したとあるが、思い付きを述べた程度で十分に「熟議」されたものだったと評価できるだろうか。関心や意識のある方の参加で貴重だと思うが、各種文化団体との当事者としての専門家・実践家の声を聞くプログラムがあっただろうか。10人程度ずつのワークショップで、市民の意見集約だとするには拙速ではないか。	今回のワークショップは、参加者の自由な意見をいただいた目的で開催したものです。少ない人数でしたが、若年層の参加も多く、活発な意見を交わしていただきました。このワークショップでいただいたご意見については、貴重など意見として基本構想に反映させることが必要と考えています。また、各種文化団体等からの意見聴取や市民アンケートも実施し、有識者会議でも議論を行って基本構想に反映しております。今後も、基本計画を策定する中でしっかりと市民の皆さんのご意見をお伺いしていきたいと考えています。
	No.46	基本構想案P8、文化活動状況の項目で「美術・工芸・陶芸」がひとくくりとは、活動の仕方が異なるものを一つにしてしまうのは乱暴では。陶芸の創作のできる場所をとという要望があったとしたら、その施設・設備・器具なども異なる対応が必要となるものでは。 また、鑑賞という点でも「音楽鑑賞」「美術鑑賞」と鑑賞は二つのタイプだけだろうか。実際に行うものと、それを見て享受するという異質な活動が一緒になってしまっている選択肢ではないか。設問に工夫が必要では。	ある程度の概要を知るために市民アンケートの選択肢をまとめております。いただいたご意見は基本計画策定の際に参考にさせていただきます。
	No.47	基本構想案P10図表、設問7の「その他」の回答の中に、数は少ないが重要な指摘、視点が含まれているものはなかっただろうか。ひとくくりでその他でくくってよしとするものだろうか。	自由記載「その他」の中には、特になしとの回答が多かったですが、それ以外では、鳥取ではあまり機会がない、お金がない、個人で楽器練習できる場所が少ない、どこでどのような活動をしているか分からないなどのご意見があり、参考にしております。
	No.48	基本構想案P16【再配置の考え方】の中に「年間の稼働率が3年連続で前年度実績を下回った施設」云々は、どういう視点、発想から生まれた考え方だろうか。時には長い時間を要して育まれていく文化芸術といわれているものに対して、その発想は馴染むものだろうか。一種の脅しのような文言に聞こえる。現行の他市の施設、市の活動の評価においても、そういう評価が定着しているものか。毎年同じような企画で継続している事業はいっぱいあり、それすら整理できていないものはたくさんあるのではないか。「年間の稼働率」というような一見分かりやすい指標を評価の軸に入れ込むといつの間にか形骸化して、「平均」より上だ・・・というようなことにほっとする思考停止状態に陥ってしまうのではないか。「年間の稼働率」が、右肩上がりでないダメという発想そのものが、鳥取市の文化を低めていくのではないか。	鳥取市公共施設再配置基本計画は、平成27年度に鳥取市の基本的な公共施設の配置の考え方を示したものです。令和5年7月には、再配置基本計画の基本的な考え方は維持しつつも施設分類ごとの方向性を見直しました。
	No.49	基本構想案P18「孤立する社会的弱者の早期発見」と一言に言われても、果たしてどういうことなのか、大切な指摘だと思うが、すんなりと読み込めない。	文化芸術をきっかけとして人と人がつながり、地域コミュニティが活性化することで、社会的な課題等も見えてくるのではと考えています。新たな文化施設は、文化芸術の拠点としての役割だけでなく、地域のコミュニティの拠点としての役割も果たせる施設を目指します。

項目		要 約	回答
	No.50	また、キュレーションなど文中に突然出てくる言葉がありますが、議論に入っていない市民に用語解説もなくすぐに読み取れるだろうか。「コンシェルジュ」という言葉も市民にすんなりと伝わる言葉だろうか。	基本構想案P7に記載する「キュレーション」はワークショップの際に出たキーワードで、情報の収集・選別・整理・編集という意味です。P30に記載する「コンシェルジュ」は、案内・相談等多様な要望に対応する専属の担当者という意味です。どちらの言葉も分かりにくいいため、注釈を加え、説明いたします。
	No.51	全体に統合・再配置などを含め、29 %もの縮減目標としたとき、まだ本構想では具体化されていないということか。仮に複合施設を「一つ」建てた場合の「総面積」はどれくらいまでの限度と想定されているのか。	鳥取市公共施設再配置基本計画にある総床面積を29%縮減する目標は公共施設全体での目標であり、2054年までの計画期間です。（40年間）場所については次の基本計画で検討する予定のため、本基本構想では総面積はまだ具体化しておりません。
	No.52	県では、新規の建設もある一方で、県立博物館やふれあい会館のように、きれいに補修して、現代の基準をできるだけ取り入れて、大切に使われている公共施設がたくさんあります。市でも、建替えの議論オンリーではなく、リノベーションして使う（これは市有物件だけでなく、空き家や閉店した店舗なども含めて）ことを真剣に考えていかないといけない時代になったのではないかと。官民で知恵を絞り、限られた経費で、いかに賑わいを作っていけるのか、今こそ検討を進めるべき時ではないか。	施設をリノベーションして使っていくことは、とても大切な考え方と認識しています。4施設はいずれも施設・設備の老朽化が進んでいることに加え、耐震基準を満たしていない施設もあります。本市では、鳥取市公共施設再配置基本計画及び鳥取市公共施設再配置の推進に向けた取組方針を踏まえ、市が保有する施設の総量を圧縮することを念頭に考えていることから、再編・統合を基本的な考えとしてしているところです。施設の再編・統合にあたっては、市民の皆様の見解をしっかりと聞き検討していきます。